



機関紙

一水会

No.15

【春号】

発行日/2021年1月18日

発行人/山本 耕造

編集責任者/さきやあきら

発行/一水会事務局

〒192-0364

東京都八王子市

南大沢2-224-3-502

玉虫良次方

Tel.042(674)6922

http://www.issuikai.org/

題字/有島 生馬

巻頭言



一水会代表 山本 耕造

例年ならば九月には、東京都美術館に於ける一水会本展で多くの人が集い盛り上がったはずなのに、残念なことに今年はコロナ禍で、それがありませんでした。

美術館の壁面に展示された自分の作品は、アトリエで懸命に仕上げた時に見た画面とはまた違って見えます。思っていた以上に良いと満足するか、思わぬ失敗点に気がつくか。いずれにしても幾ばくかの感動を覚えるものです。批評してくれる人の意見も勉強になるし、ほかの人の展示作品からも大いに刺激を受けます。色々なことに気づき、反省する。発表の喜びや、絶好の学びの機会が、今年はすっぱりとなくなっていました。

閉塞感が支配する長い日々でしたが、ようやく夏の終わり頃から少しずつ美術関係の活動再開の情報が入ってくるようになりました。一水会の中からも、研究会を実施したとか、作品展を開催したとか、明るい知らせがぼつぼつと届き始め、みなさんの制作と発表への意欲がひしひしと伝わってくるようでした。

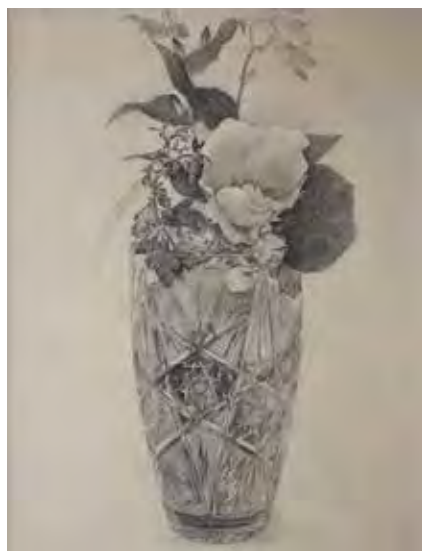
十月中旬には恒例の日展のニュースもありました。各団体展の中止が相次いだ今年は、例年より出品者が多かったそうです。一水会からの入選者は昨年よりも多い六十六名と、大変喜ばしい結果でした。

誰もが同じようなフラストレーションを抱えてコロナ終息を待っている現状ですが、自分にゆつくりと向き合う機会だということ

とにも多くの人が気づいています。これまで時間に急かされてできなかったことに挑戦できるのも今です。大きな作品であれ、小さな作品であれ、じつくりと考え、表現を磨くために使う時間があるのです。

来春は一水会精鋭展からスタートします。新型コロナの流行が否応なく我々の社会や生活スタイルを変えてしまいましたが、ますます充実した一水会になるように、皆さん一緒に頑張ってください。

令和二年九月



山本 耕造 画

油彩画0～30号8点ずつに水彩・デッサン・リトグラフを加えた総数22点による展覧。

小川先生は、利尻、知床、オホーツク海、雪中の番屋など道東の景観と、お庭の柿、寒椿を、山本先生は、ふるさと瀬戸内の海景、山からの眺望と草むらの菊、桜花、そして湖畔の富士を出品されました。

移転した同画廊の新装開店後最初の企画展。別会場でオープニングパーティーも催され「乾杯！」

久方ぶりの祝宴に話もはずみ、くつろぐ良夜となりました。

(新井 隆 記)

小川 游 山本耕造 二人展

埼玉画廊 2020 9/26～10/2



北海道

二〇二〇年春からの感染拡大で、第82回一水会展はやむなく二〇二二年に延期になりました。団体展が軒並み中止に追いやられる中、全国の各地にいる『一水会地域通信員』の方々から、この「新しい」環境に向ってなされたさまざまな取り組みの様子が報告されました。ここにその一端をご紹介します。



四月、北見での一水会北海道出品者展は、コロナ禍のさなか、奇跡的に開催できましたが、その後は、北見地方の公募展などは中止になりました。更に九月上旬まで続いた真夏日は、北海道では異例のことで、マスクをして取材に出かけるのも億劫でした。

そのせいもあり、広大な北海道全域に散在する一水会出品者同士の、細やかな情報交換はなかなか難しい状況です。

そんな中、北海道としては、来年五月の札幌市民ギャラリーでの一水会北海道出品者展に向け、準備を始めています。

詳細は決まっていないのですが、今年の一水会展に出品を予定していた作品を使いたいということになり、皆さん諦めることなく立派に仕上げようと頑張っているところです。

また、北見の一水会出品者四人は九月中旬にマイカーを駆って、道東の太平洋沿岸を二泊三日の写生旅行に出かけ、霧多布岬など周辺を描いて来ました。

道内各地の皆さんも、この情勢の中で色々工夫をして頑張っていると思います。

北海道の暑さは、ようやく一段落して涼しくなりました

が、一水会展の中止などで、目標を失って集中力を切らさないよう、日々精進して頂きたいと願っています。

(勝谷 明男 記)

各地の一水会は…

山形

山形一水会では昨年からは、則を設けて運営委員を選出、運営委員会で検討しながら各事業の取り組みに対応しています。

一水会展出品予定作品研究会は十月二十五日(日)に山形市内の霞城公民館に於いて開催され、参加者は会員十六名中十五名でした。昨年まで同様、一水会運営委員の吉崎道治先生に作品写真の事前指導をお願い致し、その結果を基に各自が加筆した1000×80号の一人二・三点、計二十八点で実施。描き込まれて見応えのある作品が多く、風景画の中では切り株、積み石、樹氷、山寺、石畳など題材を絞り込んだ個性的な作品が目立ちました。ただ、明度や彩度が低くなり過ぎた作品については加筆の必要性を感じました。会員が揃ったのが二年振りだったので、作品に対する感想や意見、質問が多くの方から例年以上



に積極的に出され、活発な研究会となりました。計画通りの七月開催であれば県内の一般見学者や、宮城県で昨年末立ち上げた宮城一水会(十三名)の皆さんに参加して頂く予定でしたが、コロナ禍により実施出来なくなったことが大変残念です。

また、新たな企画として昨年から制作研修会を始めました。絵画制作でより高みを目指すために、発表者が自由に内容を設定したり、他の会員の要望に添った内容で行うというものです。昨年は「透視図

法」や「制作実践の発表」を二人が講義形式で実施。十一月末に計画していた今年の研修会、「二十一世紀に於ける選択」を考えるヒントについて、80〜81回一水会展図録を用いての講義が、コロナ感染者増で急遽延期となつてしまひ大変残念です。そこで、準備していた講義用資料を会員全員に配布し、自己研修の形で対応しました。来年、再来年の一水会展での成果を大いに期待しながら、自らも挑んでいきたいと考えています。

(十月 遠藤 博政 記)

群馬

この二年の間、山名、外処両先生を相次いで失い、どことなく悲壮感が漂っていた会活動も新人たちの増加に伴い希望の光が見え始めた。その矢先にコロナ禍によって会活動が停滞した。

毎月行はずの研究会も今年いっぱいには休止に追い込まれた。しかし、数か月に一度の割合で行われた研究会時には会員の約半数十一〜十三名が参



群馬一水会会報

加し、情報交換や作品の講評を発売に行い切磋琢磨している。本年は研究会においても本展出品などの具体的な目標がないためだろうが、作品の持参率が低いのが危惧される。また、会員は各自、作品を制作しているが孤立の問題が顕著になってきた。

そこで、当会では、今年二月より連絡網の刷新・拡充を行い、SNS(ライン)を使って情報網の整備を図った。四月より運用を開始したオフィシャルサイトにて連絡の効率化を図り、会員相互の情報交換を行えるようにした。会員の個展

(十一月 関口 昭夫 記)

with コロナ

栃木

■栃木一水会会議および作品研究会

日時／九月六日(日)

場所／宇都宮市総合コミュニティセンター

参加者／十四名(欠席二名)

毎回会議の後半で作品研究会を行っている。今回の研究会では、残念な事但实际上に作品を持ってきたのはただ一人であった。栃木一水会絵画展や一水会本展の中止によって会員それぞれの気持ちの緩みが懸念されるところであったので、沢山の作品が見られることを期待していたのだが：コロナ



毎回会議の後半で作品研究会

禍で発表の場がなかなか困難な状況であるが、栃木一水会の会員諸氏には、ここはピンチをチャンスに変えて今までの自分の画風とは違う構想を考へるとか自分が飛躍できる良い機会であると捉え、制作に臨んでもらいたいものだ。

■栃木一水会スケッチ会

日時／十一月九日(月)

場所／羽黒山麓鬼怒川河原
参加者／八名

二〇〇五年の栃木一水会結成以来十六年目で初のスケッチ会である。思えば何と敷居の高い試みであつたろう。これからは、誰でもいつでも気軽に参加できるような企画にした。悪天候のため一週間順延となつた当日は晴天に恵まれた。会員の山口さんがコーヒーを入れてくれ、作業中おかわりまで持ってきてくれた。順延で二名が参加できなくなつたが、会員以外の女性有一名参加、お饅頭の差し入れを頂いた。

小春日和の中、十時前から十四時半まで水彩やパステル、油彩と各自が用意した画材でじっくり制作に取り組んだ。その後集合し、さきやあ

さらに先生から指導講評を頂いて解散した。

秋の深まりを感じながらの制作は思い出に残る大変有意義な一日であった。会員それぞれからまた近いうちに二回目のスケッチ会を是非やりましようと言う声が聞かれた。これからは少しずつ足を広げ、内容も深いものにしていきたいと思っている。

栃木一水会は茨城一水会と交流しているが、一水会の各支部やグループが点ではなく線で結びついていくよう、それぞれの会の情報を知り、オンラインなどを使い手軽に交流が出来れば良いと思う。

(十一月 渡邊 道男 記)



茨城

茨城一水会は昭和二十九年(一九五四年)に中村彝の愛弟子であった鈴木良三、本郷淳を中心に、本県一水会の組織づくりが進められ、昭和三十一年一月に発足、同年五月、第一回展が水戸市で開かれました。出品者は二十二名(三十八点)が陳列されました。以後、会員展を毎年続け、本年59回展を迎える準備をして来ましたが、「コロナ禍」により残念ながら中止を余儀なくされました。現在の活動としては、毎年六月、県民文化センターで「茨城一水会展」を開いておりますが、十年前から隣県である栃木一水会から毎年七、八名の賛助出品を得て、好評を頂いております。また、茨城一水会からも「栃木一水会展」に賛助出品し、お互いの交流を深めております。また、年二回(七月、九月)研究会を行なっておりますが、七月にはさきや先生に御指導をいただき、会員一人ひとりの向上をはかっております。

毎年の茨城一水会展は予想以上の好評を頂いております



が、残念なことには会員数が毎年減少し現在二十名を切り、会員増が今後の課題です。

(九月 荒蒔 邦弘 記)

埼玉

緊急事態宣言の発出をうけて、「第22回埼玉一水会の人々展」は、開催の二年間延期を決定。同時に美術館、カルチャースクールなど諸施設の閉鎖休業が拡がり、小集団による

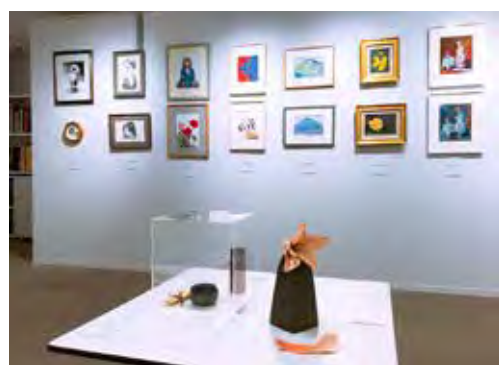
活動も休止に。しかしながら長引く活動自粛は、次第にそれを超えたい欲求を高めることにもなり、そのさなか保坂晶氏は、「団体展、県・市展等中止の中でも制作のモチベーションを上げよう!」と、意欲のある人達に呼びかけ、自身初めての「合同講評会」を九月三日に企画開催しました。



■埼玉画廊企画展

「描く事は生きること
創る事は生きること」

六月六日〜七月二十日
埼玉画廊(川口市)
ギャラリーカフェ
ART MEET Net z
(さいたま市)
二会場同時開催



「この状況下でしかできない作品を創ってもらい、作家各々のコメントと共に発信しよう」という埼玉画廊、岡村睦美店主の発想・提案に賛同した、川口市と埼玉県に縁のある美術家二十六名による小品(画家はA4サイズ程度で一人五点以内)八十五点の展覧で、一水会からは小川游、山本耕造、浅見文紀、新井隆の四名が出品。来場できない人達にも配慮して、特に媒体(図録、新聞、



東京

「コロナにも負けず、夏の暑さにも負けず」

東京一水会は二月二十五日に新年会を開きました。この時には一年間の計画確認をし、四月二十四日から開催予定の「第7回東京一水会展」の案内葉書も出来上がっていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、展覧会は中止になりました。また、三鷹市芸術文化センターで、毎年二回開かれていた研究会は、第二回目予定の五月十日を六月七日に延期したものの、対策が充分とはいかず、中止と致しました。そして八月十六日、田中義昭先生始め委員の皆様、係の方々のご尽力で出来得る限りの対策をし、参加の皆様のご協力を得て、今年初めての研究会を開くことができました。



TVなどマスコミを重要視し活用。
図録はA4判三十二頁オールカラーで作家一人を一頁ずつで紹介。全作品と作者の顔写真に各々のコメント(八百字以内)も添えられ画文集の趣があり、詩情派、社会派、ユーモラス、信念など文字による表現もまた多彩で、「作家を知る手引きにもなる」と好評を博しました。

会場では予約制のコンサートも催して賑わい、出品作の半数以上が会期中に売約済みとなり盛況。収益の一部はコロナ対策として川口市文化芸術基金に寄贈されました。

(新井隆記)

コロナ対策として、今まで一室だった部屋を三室借り、部屋を突き抜けて定員のおおむね四十％で使用。前もって参加者数、作品数を把握し、研究会を二つのグループに分けて入れ替え制としました。全て

の研究会が始まり、途中休憩を挟み十四時から第二部を開催しました。

一人ずつが作品の意図や何が描きたいのかを説明した後、先生(田中・玉虫・上原・西・小沼・滝沢・廣畑)方からアドバイスをいただきました。具体的には小品をただ拡大して大作を埋めるのではなく、画面への入れ方、大きさ、構図構成を見直す必要がある事。

画面の隅隅まで神経を張り巡らし気を使う事。できれば人物・風景・静物もエスキースを何枚も描き自分の求めるもの、方向性を突き詰める事。自分らしい絵を追求する為に、急がず、休まず、怠らず、近道をしないと言うことが重要などと丁寧で厳しい講評を受けました。

久しぶりに「あーだ、こうーだ」と言われましたので頭がパニック状態になった人もいます。一つでも心に残り制作過程の中で思い出してくればと先生方の願いです。十六時に終了、笑顔で参加者は帰られました。先生方、たいへんお疲れ様でした。

(九月 廣畑正剛記)

千葉

令和二年に入り、世界的規模に拡大した新型コロナウイルス感染症により、五月予定の作品研究会や写生会、そして最大の事業でもあります第6回千葉一水会展(六月三十日か



第5回千葉一水会展にて(2019年6月)

ら七月五日)も感染防止のため中止いたしました。今年も開催に向けて様々に準備してきたところでありますが、展覧会を開催した場合、展示場において出品者を始めとした来館者など多くの出入りが発生して「三密」の回避が難しい状況となります。展覧会に関わる

全ての皆様の安全確保を第一と考えた上での苦渋の決断でありました。美術界を大きく揺るがせ、私たちは体験したことのない対応を迫られています。そして、ウィズコロナ時代をむかえ、それに伴う自粛、生活スタイルの変化により展覧会の方法など時代に合わせた再考が急務であると思われます。

来年度の千葉一水会展に向けて創作意欲を保持し、魅力的な作品作りを目指して、会員の皆様と共に未来に向けて、新しい形を模索しながらさらなる研鑽を続けて参ります。

(九月 茅野 吉孝 記)

神奈川

運営委員の一人の瀬洋先生、斉藤蕙子先生、廣畑正剛先生の三人展が八月五日(水)から一〇日(月)まで東京原宿の積雲画廊にて開催されました。

神奈川一水会作家展としては、何も取り組んでおりません。来期の会場の抽選に



第41回神奈川一水会作家展(2019年5月)

行き、来期は五月三日(月)から九日(日)、県民ホールで行う予定です。神奈川県はコロナウィルスの感染者数が多いせい

か、会員も家に自粛されている方が多く、庭の花を描かれたり、古い絵、描きかけの絵を手直しされたりしているそうです。また来年に向け構図を考えたり、下描きをされているとの事でした。教室も七月から始まった方が多く、少人数で、換気に気を付けて実施され、また密を避けて公園など野外でスケッチを行っているところもあるようです。今のところ会員の中に感染者は出ておりません。

長野

来年にはコロナウィルスの脅威がなくなり、一水会の方々が感染する事なく、一水会展が開催されることを望みます。

(八月 三好 典子 記)

例年、七月か八月に

開催しておりました夏の長野一水会展は中止となりました。

今後の計画

- ① 会報第40号の発行(十月中)
- ② 十月中旬に予定の役員会
- ③ 令和元年九月の災害をふまえ、災害時等の調査に対応する為、地区ごとの連絡網を整備しました。
- ④ 令和三年一月三十日(日)
- ⑤ 作品研究会の開催
- 密を避ける為、東北信・南



信・中信と時間を分ける予定。

- 初出品希望者参加歓迎。
- 同日、役員会で令和二年度活動報告及び、三年度の計画について話し合う予定です。
- ⑤ 「第11回長野一水会展」開催について

● 例年会場となっていた松本市美術館が使えない為、11回展は豊科(豊科近代美術館)で開催の予定。

期日/七月十七日(土)〜二十三日(金) 二十日(火) 休館
● 一月中旬に会場の下見、展示計画作成を予定しています。

(九月 市川 広美 記)

『長野一水協会報』のご紹介

十月に広報部に届いた第40号会報には中澤代表の「新しいコロナ禍の制作、過ごし方」を

見つけよう!! という問いかけに答えて、八名が文を寄せています。

自家用車で能登半島二泊三日のスケッチ一人旅をした、小松正弘さんの精力的な楽しい旅行記。

「一水会の出品を一年休むことの大きさに気がつきました。展覧会は私の生活に良い緊張と区切りをもたらしてくれていました」と野田真由美さん。

「今年本展があれば、昨年用意した『常念岳』を出品して、丁度出品七十年を機に筆を折るつもりで参りました。もう一年頑張るか!!」という荒井泰三さん。

「この機会を『チャンス』と捉え、奮起し制作にあたることも悪くはないと気持ちの切り替えを促しています」と原元勝さん。

「ゆつくり出来る時間がありませんので、いま一度作品の構図等を振り返って見る時間にしています」という黒鳥正己さん。

今年六月に亡くなられた篠原昭登先生の思い出を書かれ「落選して落ち込む私に『落

選なんぞ何でもない、そんな事より自分の描きたい絵を描くことだ」と叱咤激励の一言。これはずっと一貫した教えでした」と恩師を偲んだ神宮紀勢子さん。

「…モチーフを変えてまだ三回目ですが、次のモチーフを何にしようかと、ずっと考えています」という松澤泉次さん。

「…以前の精鋭展での秀作に『平凡なモチーフだが、ありふれた正解ではなくオリジナルだ!!』と講評の先生のことばに感動を覚えました」とオリジナルの世界を目指す宮下正次さん。

「…今回は皆さんに元気を届けるために」と市川広美さんは編集後記に書いています。

(十月 広報部 記)

静岡

■一水会静岡地区の仲間展

九月二十二日～十月四日

ギャラリー東風

この状況下での作品展ということで、会期中にSNSフエイズブックにより全展示作品(約三十点)を毎日投稿するというスマホギャラリーを試み



てみました。私の投稿を見られる方などはわずかな数ですが、さまざまな反応を寄せてくれる方や、遠方から出向いてくれた方もあり、これまでとは違う経験となりました。コロナ禍による新たな生活様式が取りざたされています。私たちのアート活動も変化を求められてくるのではないかと感じています。(鈴木喜博 記)

中部

二〇二〇年初春にはまだ遠くの話と思っていたコロナが嵐となつて全てをのみ込んでいき、中部一水会も四月に予定

されていた65回記念展を中止せざるを得ませんでした。

自粛期間を前向きに捉えて勉強・研究・実験に取り組む人達からは明るい声を聞くこともできたのですが、82回展も中止となり、一年間発表の場が無いとなると、やはり作つたものを発表して多くの方々に見ていただき、繋がりたいという思いがつのります。

皆さんのモチベーションを来年末まで保つ為にも何かできないかと六月より美術館や会役員と話し合いを重ね、十二月一日～六日の巡回名古屋展予定期間に名称を変え「2020中部一水会研究展」の開催を決めました。

おそらく二度とない機会だと考え、今回は

狭い枠にとらわれず、平面表現においてどれだけ写真の可能性を深めていけるのか…を追求できる場になり得るよう考えました。

普段の展覧会ではできないよ



うな実験的な制作作品や、額装無しでの作品発表なども認めています。

これによつて、今までのイメージを覆すほどの熱いエネルギーが感じられる展覧会になることを期待し、またこの体験が必ず次に生かされ繋がると信じています。

「誰かがこの雨の中、飛び出さないと何も動かない」とコロナ禍にある芸術活動について演出家の発言がありました。

名古屋ではまだ予断を許さない状況なので、この先どうなるか見えませんが、中部では十分にコロナ対策をとつて展覧会に向けて準備をすすめて、「コロナに負けるな」と一同燃えています。(九月 相馬順子 記)

「2020中部一水会研究展」

二〇二〇年十二月一日(火)～六日(日)、愛知県美術館ギャラリーにおいて2020中部一水会研究展が開催され、六日間で約二千二百名の来場者がありました。

夏前に、コロナで全てが閉ざされた時だからこそ「今でしかできない事を」を合言葉に、本来第82回一水会展の巡回名古屋展が予定されていた会期で、この研究展を企画し、コロナ対策を含め、いつもと異なる展覧会の準備を進めていました。

第三波といわれる中での開催になりましたので、三密の回避は勿論のこと受付では消毒・検温・連絡先記入など来場者に協力していただき、出品者も搬入出や受付当番などお互いに十分注意を払つての作業となりましたが、何事もなく無事に終了することができました。困難な時にこそ今まで培ってきた団結力が発揮され、あらためて仲間の力をありがたく力強く感じた展覧会になりました。

このような中で、来場者が例年の三分の一だったとはいえ

毎日たくさんの方々に来ていただけの事や、一〇六人の出品者のうち九人が推薦の新人であったことは明るいニュースだったと思います。

会場には20×50号の油彩画・水彩画・パステル画等百三十八点がゆつたり並びました。

「どんな表現方法でもやりたいたい事ができる」と作品を募ったので、抽象やコラージュされた作品・段ボールや板に描かれた作品・額装無しの発表スタイルなど本来の展覧会ではできないような新しい取組みや、自分の殻を破ろうとがいた作品なども並び、来場者からは「いつもと違う熱気を感じました」と大変好評でした。

今回は実験・研究の場なので入・落・賞などはないと始めましたが、「大きく踏み出して動き始めた人たちに今後に繋がる何かを贈れないだろうか」と運営委員の先生方から声上がり、急遽会期中で「期待賞」というエールが五名に贈られることになりました。

最終日、閉会前の展示会場内で簡単な臨時授賞式が行なわれることになり、受賞候補者についても作品の「いいね



イントクについてや、次へのアドバイスなどが話されました。その後、絵画制作における基本や、実験制作をどう公募展出品作品にいかしていくか…などミニミニ講義となり、座り込んでメモをとる方々の姿もありました。

「会期中毎日が研究会」ということで、作品の前で熱心に質問をする姿や、次回の展覧会に向けて仲間同士でのディスカッションなどがあちこちで見られ、コロナ禍で全員が参加することは難しい状況でしたが、絵を描く意味や心構えなどを



再認識する良い機会となりました。

「せっかくなので、何かやろうと考えたけど、結局いつもと同じことしかできませんでした」という声も聞かれましたが、今回大きな変化がなくても、何か考えてみたことが大事で、それは必ず次につながる。最後に「今回は出品者全員が努力賞!!」と皆で拍手をして閉会となりました。

後にこのコロナの年を暗く悲しい思い出だけにしてしまおうとなく、表現者として今回の体験が必ず次に生かされることを信じています。

(十二月 相馬 順子 記)

石川

「石川県一水会研究展」を開催して

新型コロナウイルスの影響で第82回一水会展が翌年に延期となる中、石川県一水会出品者協会では金沢展中止に代わり、新たな挑戦に取り組むための「研究展」を開催いたしました。

完成作品だけでなく、今後の出品に向けた制作途中作品をも一堂に展示して研究する新しい企画で、地元金沢市の芸術文化振興緊急奨励事業の認定を受けて実施したものです。

会場は金沢市のお隣、白山市の総合文化施設「市民工房うるわし」二階ギャラリー。会期は九月三十日から十月四日までで、入場は無料。七十八人が出品しました。

会期中は施設の感染防止策に従い、来場者全員に検温、マスク着用、手の消毒のほか、万一に備えて住所・氏名・連絡先の記入をお願いし、使用し



たペンも一本ずつ消毒するという徹底した受付体制で臨みしました。

今回の、「作品を展示しての研究会」は、三密を防ぐため、風景、人物、静物、その他の四つのジャンル別に四日間の午前・午後に分け、本部委

員の先生方から一点ずつ指導を受ける形で行われました。例年の出品作品研究会では、一人の持ち時間に制限がありましたが今回はそれを気にせず、様々な角度から指摘、提案などを受けられたことは今後の制作展開に大変有意義であっ

たと思います。研究会中は一般来場者もその内容を聴くことができ、「厳しい指摘の言葉を聞いた。一枚の絵を仕上げるにもこんな過程があることを知



り、良い勉強になった。」との声も。また協会員、来場者双方から「完成作品だけでなく、構図や下描き段階、モノクロームの作品がすごく印象に残った。」との好評も多く、来年の作品完成に向けて大きな期待が寄せられました。初めての会場、初めての企画でしたが準備を含め五日間の日程を無事終えられたことに出品者一同、安堵しています。

なお、この研究展の研究会

指導風景は、十一月末に掲載した「一水会のホームページ」でご覧になれます。地元の金沢城、兼六園や毎年開催される一水会金沢展、祝賀会の様子も紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

最後に、一日も早いコロナの収束と、来年の第82回一水会展が盛大に開催されますことを心より願っております。

(十月 加地求記)

四国

今年は五月に高知県立美術館で行うことで準備を進めていましたが、やむを得ず中止となりました。案内はがきや出品作品目録など準備済でしたが安全、安心を優先しました。次回の開催は二年後でその頃にはコロナ禍も終息していることを願うところです。

また、今年の一水会展出品制作については一水会展開催の有無にかかわらず、例年どおり進めることで取り組みました。愛媛と高知の二か所で各自制作作品を持ち寄っての



勉強会を実施いたしました。

今回は「三密」を避けるとともに、広島先生方とは写真データと手紙などでのやり取りとなりました。愛媛では十名が集まり、勉強会の場で先生方からのきめ細かい講評、アドバイスなどを披露したところ。各自が作品を前に講評を披露することで参加者全員の勉強会となりました。そのあとは各自集中して制作に励むことができ、有意義な一日となりました。

高知側では十名の方が作品の写真データと質問を先生方

広島

に提出し、後日先生方から各自に講評と質問への回答が送られてきました。講評及び質問への回答は丁寧で分かりやすいとの声が寄せられました。

(九月 森川定男記)

今年、広島一水会は、四月六日・十三日に「第6回広島一水会展・第40回路展」を開催する予定でした。案内状の印刷も出来上がり、いざ発送というところでしたが、新型コロナウイルス感染の拡大を受け、三月の初めに残念ながら中止を決定しました。また、例年五月連休明けに計画するスケッチ会も断念。会の皆さんと顔を合わせることもなく夏を越しました。

そういうわけで、いつもなら会期中に行う講評会ができなかったのも、別途研修会を持ちたいと時期を見ていたところ、八月後半から広島市では感染者数が零く一

桁台前半に収まって来、そこで研修会を九月初旬に行うことに踏み切りました。が、近郊の画材店新社屋二階の真新しいスペースを借りることにしたものの、運悪く台風九号と重なり、翌週に延期。ようやく九月十二日(土)に研修会を持つことが出来ました。

ところが、当日はあいにくの結構な雨、そのため作品を持ち寄ることができなかった参加者がありました。今年は何かが広島一水会の活動を阻もうとしているようです。

しかし、この度は、皆さんに現在制作中の作品の写真を



事前に提出してもらい、久保田先生と下見をしてアドバイスの内容などを作品画像に反映させたものを準備しておいたので、あまり困ることなく研修会を進められました。

今回の研修会は新しい試みとして、実作品だけでなく、前述したように事前に作品写真の下見を反映させた画像を準備し、その画像をプロジェクトで投影し、講評、提案という方式をとり入れました。

こうしたらどうか、ああしたかどうかという言葉での講評だけでは分かりにくいところを実作品と見比べながら、実際に画面上で試行錯誤をある程度やつてみる事が出来るのは、百聞は一見に如かず、分かりやすいと好評でした。

コロナウイルス感染者が減少傾向にあるとはいえ、まだまだ油断せず、短時間、換気、マスク等の感染防止対策を講じて行いました。

ちょうどこの研修会のひと月後、来年の「広島一水会・路展」の会期、会場が決定するので、それに向けて、またスタートです。

(九月 木村毅記)

第6回北海道一水会出品者展

二〇二〇年四月十二日～十八日 北網圏北見文化センター美術館

コロナウイルス感染拡大に伴い国に先がけ一早く緊急事態宣言がされた北海道で、しかも外出自粛要請が出されている中で第6回展開催となりました。

今回は、二十一人が新作も含め20号～120号の作品四十一点を出品しました。

広大な全道各地に居住する作家が、それぞれの視点で追い求める地域に根ざした題材や独自の表現方法による主題追求の力作が展示され見応えのある美術展となりました。

これ迄の美術展観覧と違い、氏名・連絡先電話番号・入館時間・体調チェックの単票提出等手間が掛かる入館手続きや、手のアルコール消毒、間隔をあけての観覧等々があるにも拘らず六日間で四百三十名の入場者がありました。

観覧された方々から、「毎日の暗いニュースに気持ちまで暗くなる中、こんなに素晴らしい沢山の絵を見ることがで

き、心が明るくなりました。」等の言葉が寄せられました。

幸い、二ヶ月以上経過してもこの美術展関係者からコロナウイルス感染者が出ることはありませんでした。人一倍責任を感じて悩んでおられた運営委員の佐藤道雄さんをはじめ出品者及び関係者一同ほっと一安心しているところです。

(阿部賢二記)



尼信会館で個展

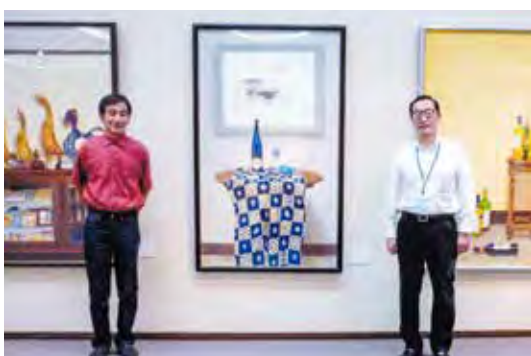
大阪府 中辻修



長のご厚意で展示はそのまま、休館中とは知らずに私の個展に来られた方に入館できるように配慮していただいたことはとても有難かったです。休館中私は不在で失礼しましたが、大勢の方々に鑑賞していただいたことが大きな喜びです。開催から数日ではありましたが立派な会場で充実した時間を過ごさせていただくことが出来ました。ご支援いただきました方々には心より感謝申し上げます。

(中辻修記)

七月十八日～八月二十三日、兵庫県尼崎市にある尼信会館で個展を開催させていただきました。個展は過去に一水会展、研水会展などに出展した作品から三十三点を選び展示しました。ちょうどコロナ感染症拡大の第二波が危ぶまれておりました。会館のスタッフにより消毒、検温等徹底した感染防止対策を講じていただいておりますが、来館者の健康と安全を最優先に考慮し、残念ながら八月六日より臨時休館となりました。館



十九歳の一九四九年に描かれたF10号『ビンの静物』から、二〇一九年の一水会展出品作、P80号『博物館にて』に至るまでの油絵五十四点に、パステル画二点、鉛筆デッサン十一点、版画三点を加えた総数七十点の陳列。

そして、寺井先生が手掛けられた、ふるさと切手埼玉版『幻の花ムジナモ』の記念切手と、芳子夫人との共著で二〇〇八年に出版された、『句画集 画室の灯』、俳人として俳誌『ホトトギス』にも投句されたご父君、久治氏の句集『朴の花』（一九七〇年現玄社刊）も展示されています。

さらに、寺井先生のご趣味



「冬晴の利根川」 F100号 2012年

のひとつ、プラモデル製作の中から選ばれた戦闘機、旅客機、豪華客船がショーケースを飾り、その巧緻な出来栄に眼を奪われます。

会場入口に掲げられたお言葉『卒寿を迎えて』の中で先生は、「…穴があつたら入りたい様な恥ずかしい事ばかりしてき



「句画集 画室の灯」

た様だ。画は生活の表現だから恥ずかしい画ばかり描いていたことになる。それでも皆様に共感して頂けるものもあるかもしれない。画の道だけは一生涯懸命やってきたと言えると思う。」と述懐しておられます。

会場を巡り、ものとこととを惹き込んでおられる、細やかな眼差しに魅せられて、佇み、鎮まり、閑けさに包まれる…。感染騒動に掻き消された「親密」ということ、失われたという「日常」、それらの奥深さ、本当の姿に、作画を通してもう一度向き合ってみた、という思いが勇気と共に心に充ちる鑑賞になりました。

(新井隆記)

一瀬先生の作品は油絵とエッチング・モノタイプの版画やコラージュした作品。それらは日常と違う制作プロセス、思考回路に導かれる楽しさや雰囲気を感じました。

普段は山の風景を多く制作していますが、彼の心に触れる良い機会であった様に思



猛暑の中二〇〇名以上の入達にご来場いただきありがとうございました。御礼申し上げます。普段の大作と違って、細かな部分を楽しんでいたただけではないかと思ひます。

三人共お洒落な展覧になったネ。と嬉しく自負した六日間でした。(廣畑 正剛記)



齊藤先生の作品群は女性の「まなざし」を表現していました。絵から語りかけてくる妖しさがありません。0号、3号の作品の大きさに女性性の憂いや愛らしいまなざしを感じる眼の表情でした。愛犬をみる作者の目は一瞬を掴み取る彼女の心のやさしさと「まなざし」でした。

一瀬 洋
齊藤 恵子
廣畑 正剛

三人展

原宿積雲画廊
二〇二〇年八月五日(水)
～八月十日(月)

卒寿記念 寺井力三郎展

～暮らしに息づく絵画～

2020年9月26日～2021年3月7日

サトエ記念21世紀美術館

埼玉県加須市

【開館時間】10:00～17:00

【休館日】

月曜日(1月11日は開館・1月12日は休館)

年末年始(12月23日～1月6日)

【入場料】

一般900円/大・高生700円/小・中学生600円



この人に注目⑮

星谷明さん（東京都）



このたびの「この人に注目」は、永いあいだ一水会展の搬入から展示、搬出まで一手に展覧会をサポートいただいている「頼りになる職人集団」・日本美術商事の社長、星谷明さん（五十八歳）にインタビューしてみました。

●お忙しいなかお時間を頂き、ありがとうございます。今日は宜しくお願いいたします。早速ですがホシヤさんはその昔、火消しの「れ組」の頭として江戸時代から営々と続けてこられたんですね。今のお仕事になるまでの沿革を少し伺いたいのですが。

この商売、美術に関しては僕で五代目です。初代、善太郎、二代目は安久利、三代目

は父の善男。四代目が母です。そのむかし町火消しには縄張りがあり、れ組は上野の森、文京区谷中、下谷。上野の山に文化があつたわけで、その頭で、困ったことがあつたら仲裁に入るとか、街の相談役も務めた。安久利は江戸全体の六十くらいの組の総元締めをしていた。頭で勲四等になったのは、安久利がはじめてなんです。

善太郎さんから上野界隈を



縄張りに、仕切っていた訳。

いろんな街のまかないごとにしても。安久利は頭の仕事をしながら半分くらい美術をやるようになって、父は完全に美術の仕事をやるようになりました。

親父の善男は全国的美術関係者の方々と仲良く、亡くなった時に三千人くらい来ましたからね。びつくりしました。

●人望が厚かったんですね。

昭和二十二年からホシヤ商會として始めたんです。昭和三十四年から日本美術商事になりました。

●ホシヤと言う屋号の方が古いですね。

ここに都美術館の元学芸員の佐々木秀彦さんが書かれた、美術館と鳶と火消しのルーツを解き明かした「都美術館・鳶職・町火消」（東京都美術館紀要No.19）という文書があります。（次ページにその要約した年表を掲載）

●ホームページを拝見しますと『美の黒子』という文字がまづ目に入ります。それから会社の理念に『心・技・体』とありましたか？

「心」は心を込めて、「技」は



が何か困った時は絶対助けなくちゃいけない。先生たちがあつて日美がある。

ここに『義理と人情とやせ我慢』という扁額があります。が、義理って言うのは助けること。人情って言うのは人に対する思いやり。やせ我慢って言うのは、やるべきことをやることなんです。

●有難いお話です。

昔おられた番頭さんの橋本さん、あの人がすごかったですね。

技術力、「体」は健康な身体、三つが揃わないとだめなので、社員がみんな、心がけていますね。一つだけでは何もならない。三つがまとまってひとつの気持ちでやっています。

●51回展の大改革で会費が激減したなかで、先代社長さんが仕事を引き受けてくださり、一水会はいへん助かりました。お父様のことで何かお話を伺えましたか？

父がいつも言っていたことは祖父の代から続く仕事をこれまで続けてこられたのは、先生たちのおかげでやって来られたんだと。だから、先生たち

●社長に就任されたのは何年でしたか。

社長になってちょうど十年です。実は中学校の頃は陸上

日本美術商事(ホシヤ)沿革年表

東京都美術館紀要No.19「都美館・鳶職・町火消」より

- 明治22年 東京美術学校(現東京芸術大学)の開校と同時博物館の諸業務を担当し出入り業者を拝命。
- 明治41年 竹の台木造美術館において第1回文展開催に展示場設備陳列等のご用を拝命。
- 大正15年 東京府立美術館(現東京都美術館)開館に伴い、美術展覧会の設備陳列等を担当し、昭和20年迄館内に営業所を設置。戦時中は、星谷善男を始め従業員全員美術館を当館職員と共に戦火より守り、被爆箇所の修理及び作品の移動を行なう。
- 昭和21年 戦争画を進駐軍の命令で陳列し約20年間に渡り管理。
- 昭和22年 「合資会社美術商事ホシヤ商会」設立 都立美術館を中心に各美術展覧会業務を担当し、美術館、博物館などの主催する地方展開催に協力。
- 昭和34年 組織を株式会社に変更、「日本美術商事 株式会社」と社名変更。
- 平成16年 一般貨物自動車運送業認可。
- 平成22年 代表取締役星谷明就任 加賀倉庫竣工。

をやっている、本当はそういうスポーツの方をやりたかったんですが、途中から御茶ノ水の文化学院に行ったんですね。高校ぐらいから家の仕事を手伝っているうちにこの仕事をやるんだっただけということ、行かしてもらったんですよ。

父が亡くなる頃、大きな仕事で急に中止になって、相談する相手もなく途方にふていたところ、美術館が仕事を



回して下さったり、日動さん等の仕事が増えて徐々に安定してきました。

今は美術館の指導もすごく厳しい。二段がけのときに使

う台車ありますよね。それ、これからは免許が要るっていうのでみんな高所作業の免許取ったんですよ。

車もそうです。車は一切エアース、空調のはいつている車に変えたんですよ。昔は幌のトラックでしたが、僕の時代はここに力を入れたんです。結局、仕事はそういうことで伸びていく。

●いま、一水会を含め、団体展に関してはどのくらいの仕事をされていますか。

今は、四十五件くらい。企画展が十五件くらい。コロナになって半減しました。一水会からお見舞金をいただいたときは、じんときましたね。

●日美さんには日美賞を出して戴いていますが、スポンサーとして望まれることがあれば……

僕としては偉そうなことは言えないんですが、一水会の発展に寄与できれば、という、それだけです。

●ご長男の健太さんに期待されることがあればお聞かせください。

彼も、今年親になったんですが、僕としてみれば、跡継

ぎであることに慢心せず、お客様、社員に思いやりを持って、人に好かれる人間になって欲しいなと思います。彼は東京工芸大卒なんですが、パソコンとか得意なんです。そういう分野を生かして新しいことを拓いていけばいいと思います。

●ホームページも彼が?

そうですね。あと、PCで巡回展などの資料、広告関係もできなきゃです。ボルト一本欠けてもエンジンが動かないように、僕らは「一水会展のボルトの一つとして役に立っていればいいな」と。

●近い将来について何か。

一水会に限らずいろんな先生のところに行くとき大きな絵が重なっていることが多いんですよ。そういう大きな絵はなかなか飾るところがないじゃないですか。自分としてみれば、販売ではなくレンタルで会社のロビーや玄関にドンと置いてみたい。画廊じゃなくても、人が集まる場所に展示できれば良いと思う。活用でき、絵を見てもらう、



そういうお手伝いが出来ればいいなと思っています。

日常の暮らしの中に『絵に接する場所』があると、今まで絵に興味が無かった人も「今度お金を払って美術館に行ってみようかな」とか思うようになるかもしれない。そういうことをしてみたい。

●現代作家のいちばんの悩みは『死後自分の絵はどうなるのか?』というものらしいです。ホシヤさんのその考えは、作家にとって夢のようですね。今日は良いお話がうかがえました、ありがとうございます。

(聞き手 さきやあきら)

2021年に開催予定の「地域展情報」を、各地の事務担当者よりお寄せ頂きました。会場と会期形式は例年どおりでも、私たちのものを観る眼、こころの奥底では何かが変わりつつあるのではないのでしょうか。災厄の中で隔てられる人と人、その個人の活動までもが制限される今、踏み出す一歩を支えるのは絵画を通して結ばれた強い「絆」。その結束力が、これからの各地で大いに発揮されることでしょう。掲載された地域展が肅々と催され、本紙次号が各地からの朗報で満たされますように…。(新井 隆 記)

その他の企画	公募・推薦	賞	代表者 事務局	後援／共催	宣伝方法	新たな取り組み ／計画・予定
なし	なし	なし	佐藤 道雄 佐藤 道雄	今回は、なし	作品掲載のチラシ、案内はがき	なし
陳列作業後批評会 最終日搬出前に反省会	なし	なし	遠藤 博政 高橋 巨志	後援／山形県芸文協会、 山形市芸文協会、山形新聞、 山形放送、県美術連盟	案内状の郵送・配布（個人、後 援団体）、報道機関訪問	なし
記念展では チャリティーを実施	なし	なし	荒蒔 邦弘 飯塚 和秀	後援／茨城県、茨城新聞社	なし	なし
初日、レセプション開催 来賓を招き歓談	なし	なし	渡邊 道夫 森 恵美子	後援／県教委、宇都宮市教委、 県文化協会、下野新聞社	案内状を関係機関、個人宛に 郵送・配布、新聞に案内掲載	なし
なし	なし	なし	田端 敏夫 関口 昭夫	なし	上毛新聞、DM送付・配布 (過去芳名録も利用)	各作品の記録、 芳名録などの電 子データ化
なし	なし	なし	田端 敏夫 関口 昭夫	なし	上毛新聞、DM送付・配布 (過去芳名録も利用)	各作品の記録、 芳名録などの電 子データ化
なし	なし	なし	田端 敏夫 関口 昭夫	後援／県教委、 県教育文化事業団、 高崎市教委、群馬テレビ、 上毛新聞社	上毛新聞、DM送付・配布 (過去芳名録も利用)	第45回群馬一 水会 展の図録 作成
初日夕刻 オープニングパーティ開催	推薦 あり	賞あり ※1	森 敬介 新井 隆	後援／川口市、 川口市教育委員会、 川口総合文化センター	DM郵送・配布、「広報川口」に 案内記事掲載、会期中ケーブル テレビで放送	推薦による出品 者14名（一水 会 展 未 出 品 者 含む）加入
作品研究会開催予定 (5月中旬)	なし	なし	茅野 吉孝 真木 克明	千葉県教育委員会	委・会員による勸奨、 案内状2000枚郵送・配布	なし
オープニングパーティ開催	なし	なし	田中 義昭 廣畑 正剛	なし	O美術館ホームページ掲載、 DM郵送・配布	なし
会期中、会場で 人物デッサン会開催	公募 あり	賞あり ※2	一の瀬 洋 加曽利光男	なし	前年度入場者へDM郵送	公募入選者に 限らず、同人対 象の賞を新設
なし	なし	なし	中澤 嘉文 小松 正弘	なし	DM配布、新聞社等には文書で 案内し取材を依頼	なし
図録販売 人物デッサン会	なし	なし	杉森企観明 杉森企観明	新潟日報新聞社	案内状の配布・郵送	なし

2021 各地の一水会 展覧会情報

※表中の略号:委=委員 会=準=会員・準会員 友・般=会友・一般

地域 展覧会名	会 期	会 場	参加予定 人数/内訳	出品作品 サイズ/点数	ギャラリートーク/講評会
北海道 第7回一水会北海道 出品者展	5/12 ～16	札幌市民ギャラリー	委3 会・準1 友・般13 他2	50～150号 1人2～3点 総数約40点	会場にて意見交換
山 形 第2回山形一水会展	7/14 ～20	山形県芸文美術館 ギャラリー1・2	委1 会2 友・般13	100～50号 1人2～3点 総数約45点	会期中の土日午後、 出品者をグループに分け 1人7分の自由トーク
茨 城 第59回茨城一水会展	7/5 ～11	ザ・ヒロサワ・シティ会館 2F 一般展示室	委1 会・準5 友・般8	20～120号 1人2点 賛助(栃木)数点 総数約28点	委員による講評会
栃 木 第15回栃木一水会 絵画展	5/17 ～23	栃木県総合文化センター 第4ギャラリー	委1 会・準3 友・般12 賛助(茨城)8	15～100号 1人3点 賛助(茨城)8点 総数約56点	初日、本部代表による講評、 観覧者を交えて全会員による 作品講評
群 馬 第43回群馬一水会展	2/24 ～3/2	高崎高島屋5階 アートギャラリー	委1 会・準4 友・般18	会友以上は合計サイズ 15号以内1人2点まで 一般は10号以内1人1点 総数約30点	会場にて講評会・研究会
第44回群馬一水会展	4/10 ～18	ギャラリー石澤 (高崎市)	委1 会・準4 友・般18	10号以下 1人1点 総数約25点	会場にて講評会・研究会
第45回群馬一水会展	7/22 ～28	高崎シティーギャラリー	委1 会・準4 友・般18	100号2点と 30号以内1点の1人3点 総数約70点	会場にて講評会・研究会
埼 玉 第22回埼玉一水会 の人々展	5/30 ～6/5	川口総合文化センター リリア1階 展示ホール	委14 会・準13 友・般37 推薦14	1人2点(30号程度と 50号程度1点ずつ) 推薦は30号を1人1点 委員以上は中品1点	最終日午後～委員による講評会
千 葉 第7回千葉一水会展	6/22 ～27	千葉県立美術館 第4展示室	委3 会・準3 友・般25 他10	100号まで 1人2点、一般は1点 総数約70点	会期中の1日午後 4先生(鈴木益躬、茅野吉孝、 田辺知治、久保博孝)による講評会
東 京 第8回東京一水会展	4/23 ～28	大崎O美術館	委7 会・準5 友・般37	20～50号 1人1点 総数約40点	随時先生方に講評を依頼できる
神奈川 第42回神奈川一水会 作家展	5/3 ～9	神奈川県民ホール ギャラリー	委11 会・準15 友・般18 公募入選35	10～100号 1人1点 総数約80点	会期中に講評会開催
長 野 第11回長野一水会展	7/17 ～23 (20休)	豊科近代美術館	委1 会・準11 友・般51 他12	50～100号 1人1点 総数約75点	本部から先生2名を招き 研究会を実施、全作品を見て頂く
新 潟 新潟一水会展	6月予定	昭和セイシ・ギャラリー	委2 会1 友・般10	50～100号 1人1点 総数約13点	なし

※1…川口市長賞、高田誠奨励賞、記念賞(記念展) ※2…奨励賞、佳作賞

その他の企画	公募・推薦	賞	代表者 事務局	後援／共催	宣伝方法	新たな取組み ／計画・予定
なし	なし	なし	山本 勇 宇野のり子	金沢市、北國新聞社、 北陸放送、テレビ金沢	DM配布、新聞掲載、テレビ放映、 石川県芸術文化協会のホームページ掲載、申請者のSNSに配信	研究展は本展 不開催の時に 開催する
会場1室で 小品販売売上げの一部を 会場費に充てる	なし	なし	永谷 光隆 鈴木 喜博	後援／浜松美術協会、 静岡新聞、静岡放送、 中日新聞東海本社	DMは過去来場者も郵送、画材 店公共施設等にDM配布依頼、 後援報道機関に取材を依頼	なし
来場者が個々に描いた 花を貼り、花満開の 大樹に仕上げる	あり	賞あり ※3	鈴木 順一 所 征男	後援／中日新聞社、 愛知県教育委員会	中日新聞社社告、DM、ポスター 配布、中部一水会ホームページ 公開	なし
大阪市長賞受賞作品 (記念賞の年はその受賞作) をプログラム表紙に掲載	あり	賞あり ※4	辰巳 文一 山下 審也	後援／大阪市、 大阪市教育委員会、 読売新聞社	ホームページ、読売新聞記事掲 載、ポスター、チラシ等配布(美術 館・画廊・学校・美術団体・画材店 他)会員・出品者による宣伝	なし
なし	なし	なし	笠井 隆良 児島 真澄	後援／神戸市、 神戸市教育委員会、 (公財)神戸市民文化振興財団、 神戸新聞社	後援団体にポスターDM送付と 新聞に掲載依頼、画材店・美術館 に掲示依頼、出品者による宣伝	「兵庫一水会 だより」年1回 発行を準備中
なし	なし	なし	辰巳 文一 小泉 玲子	奈良新聞社に 記事掲載を依頼	県・市文化振興課、新聞社、美術 館・画廊・画材店にDM、ポスター 送付、会員各1枚ポスター掲示	なし
会場で公開講座 (人物クロッキー、水彩画)	なし	なし	重藤 和彦 (元会友) 山本 佳子	山陽新聞社に 記事掲載依頼	ポスター、DM、新聞紙上掲載	なし
なし	なし	なし	久保田辰男 木村 毅	後援／中国新聞社、 広島市文化協会、 NPOひろしまインターネット 美術館	案内状(個人郵送、画材店等配 布)、ひろしまインターネット美術 館に掲載	なし
なし	なし	なし	森川 定男 島崎八州彦	後援／高知県、高知新聞社、 RKC高知放送、 NHK高知放送局	関係個所へ案内状配布、マスコ ミへの依頼	なし

《委員／会員／新鋭／小品／グループ展》

地域 展覧会名	会 期	会 場	出品者資格 人数	出品作品 サイズ／点数	計画／検討
栃木 第7回栃木一水会 小品展	未定	ギャラリー ファミーユ (宇都宮市内)	栃木一水会会員 16名	0～10号 1人2点 総数約32点	隔年開催し、売上げの一部を栃 木一水会に納入
静岡 一水会静岡地区の 仲間展	9月 または 10月	ギャラリー 「東風-こち-」	一水会出品者 または 出品予定者	0～20号 1人4点 総数約20点	地区の仲間、出品者相互による 講習会開催
中部 第4回中部一水会 委員／会員展	5/6 ～11	5Rホール& ギャラリー (名古屋市中千種区)	一水会委員 会員、準会員 計25名	SM～12号 1人2点 総数約50点	日常で見逃していたものを見直 し、古くても良いものを再認識 する
関西(研水会) 第9回研水会新鋭展	10/14 ～19	ホルペイン ギャラリー	第72回研水会展での 受賞会員・一般受賞者・ 推挙者の中から選抜	20～30号 1点と 小品1点の1人2点 総数約80点	関西運営委員の先生方による ギャラリートーク、オープニン グパーティ開催、小品は販売

地域 展覧会名	会 期	会 場	参加予定 人数/内訳	出品作品 サイズ/点数	ギャラリートーク/講評会
石川 石川県一水会研究展	2020 9/30～ 10/4	白山市市民工房 「うるわし」 1・2階ギャラリー	委8 会・準16 友・般51 他4	30～130号1人1点 第82回一水会展を 目指す総数約79点	人物・風景・静物・その他の 4部門に分けて4日間 午前・午後、研究会を開催
静岡 第6回一水会静岡 地区作品展	2/8 ～14	クリエート浜松 ギャラリー32・33	会・準2 友・般5 他1	0～120号 1人10点 総数約60点	地区会員相互による 講評会を開催予定
中部 第65回記念中部 一水会展	4/13 ～18	愛知県芸術文化センター 8階 愛知県美術館	委8 会・準18 友・般107 他新出品7	20～100号 1人1点 総数約140点	感染防止対策をし、 1時間程度の講評会を開催
関西(研水会) 第72回研水会展	5/18 ～23	大阪市立美術館	委11 会・準29 友・般210	20～100号 1人1点 総数約250点	関西運営委員・常任委員・委員の 先生方による ギャラリートークを実施
兵庫 第63回一水会 兵庫県出品者協会展	6/22 ～27	兵庫県民アートギャラリー (大展示室・中展示室)	委3 会・準7 友・般22	20～130号(81回一水 会展 71回研水会展出品 作)1人2点小品1点以上 総数約100点	兵庫の委員全員と関西の 運営委員に依頼し 講評会開催予定
奈良 第50回奈良県 一水会出品者展	2/10 ～14	奈良県文化会館	委6 会・準10 友・般53	20～50号 1人1点 総数約68点	なし
岡山 第18回岡山梨花会展	12/14 ～19	岡山県天神山文化プラザ 第一展示室(大室)	会1 友・般8 その他34	6～130号 1人1～3点	感染防止対策をし、 1時間程度の講評会開催
広島 第6回広島一水会展 ・第40回路展	4/6 ～11	広島県立美術館 県民ギャラリー4～5室	委3 会・準1 友・般15 他9	制限なし(作品サイズ合 計目安おおそ150号)	会期中土曜午後会場で 2時間程度の講評会
四国 第5回四国一水会 出品者協会展	未定 コロナ感染 状況による	高知県立美術館 県民ギャラリー	委1 会・準3 友・般17 賛助2	～100号 1人1点 総数約23点	なし

※3…中部一水会賞、県教委賞、中日賞、藤島奨励賞、他

※4…研水会賞、読売新聞社賞、一般・会員佳作賞、大阪市立美術館館長賞、大阪市長賞、大阪市教育委員会教育長賞、副賞多数



広島一水会の三名もヒロシマの心を繋ぐための一端を担えたのではないかと思います。
(十二月 木村 毅 記)

同展は期間中各種メディアに報道され、コロナ禍にも関わらず百六十名の修学旅行生、観光で訪れた方も含め、千七百六十名もの来場者を迎えました。

広島一水会からは、久保田辰男が市内に残る被爆樹の描き込まれたスケッチ三点を出品、木村毅、樋谷邦夫は大作をそれぞれ二点ずつ出品しました。

短信

「ヒロシマ平和絵画展」
広島一水会から三名が参加

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館
開館25周年記念

「尾崎正章と 山口一水会 の仲間たち」

時 2020年10月10日(土)～11月29日(日)
所 周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館



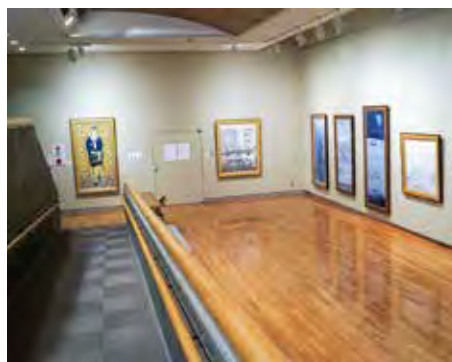
今年、開館25周年をむかえた周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館は、山口県の南部、瀬戸内海に面した、周南市の永源山公園という小高い丘の上にあつて、尾崎正章先生の油彩画他三三八点、デッサン他三九二点、そのほか寺井力三郎先生から寄贈された油彩画、デッサンが収蔵されています。開館25周年記念「尾崎正章と山口一水会の仲間たち」展に訪れ、お話を伺ってきました。

尾崎正章先生は、一九二二明治四十五年、山口県徳山市（現周南市）に生まれ、十五歳の時に胸を患って中学を休学した時、絵に興味を持ちました。日大文学部に進学。しかし、病再発のため中退、療養先の京都で画商に勤めました。そこで、出会った大谷大学教授、新村秀一の勧めで本格的に絵を描くことになりました。一九四二（昭和十六）年に



一水会展初入選、二十九歳の時でした。終戦後、新村に画家になることを勧められ、その父、新村出（広辞苑の編者）の紹介で、安井曾太郎に師事することになります。また一方で郷土の防長美術家連盟に加入し、国画会の松田正平と出会い、会も画風も違えど以後長く親交を結びます。そして、主に日展と一水会とで活躍され、以後二〇〇二（平成十三）年に亡くなるまで一水会展に毎年出品されました。

今回の展覧会では、尾崎先生が一水会で発表した作品にスポットを当て、その中から十一点を常設展として紹介し、同



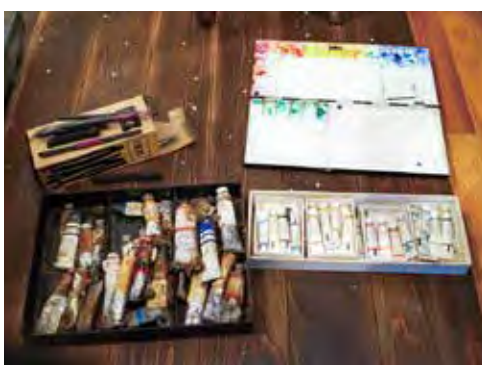
時に企画展「尾崎正章と山口一水会の仲間たち」として、尾崎先生に直接師事した現一水会委員の岩池和代さん、準会員の藤村寛さんをはじめ、一般出品者の高尾欽也さん、弘中知さん、大久保宏也さんの作品が並び、尾崎先生から続く山口一水会の途切れない流れを見せてくれます。

記念館のゲートくぐって中に入り、玄関ロビーから長い緩やかなスロープを下りると正面に第26回一水会展出品

独特の縦長、横長サイズは、大きなキャンバスと小さなキャンバスの木枠を組み合わせて作らせておられたと岩池さんから聞きました。

風景画はベネチアの風景が描かれた二点を除いて瀬戸内が描かれています。今回は展示がありませんが、尾崎先生には地元のイワシ漁を描いた作品があります。館長は、地域の作家でも気づかなかった地元のイワシ漁をモチーフとして取りあげたことに尾崎先生の郷土への強い思いを感じると仰っていました。

先へ進むと展示室奥には先生のアトリエを彷彿とさせるコーナーが設けてあります。館長と学芸員の今井さん、山口



一水会の方々とで陳列されている道具一つ一つを見ながら、尾崎先生の思い出話に花が咲きました。絵具はルフラン、ニュートン。下描きの黒はご自分で調合されチューブに詰めておられたとのこと。キャンバスは

クレサン、品番を指定してロールで何本もあったそうです。壁にはカラダッシュ色鉛筆の自作色見本など。中でも一番、目を引くのはでんと据えられた赤いストーブでしょう。時折来る取材の記者たちはたいいてい



これを入れて先生の写真を撮ったそうです。

これらの道具類から見えてくるのは、尾崎先生の良い絵を描くことへのこだわり。そのまま作品になりそうな原寸大の精緻な下図は、そんな道具の中のニュートンの木炭やコンテで描かれました。そんな先生を見ておられた藤村さんは、「先生は、常に丁寧な作品作りで、それは誠実なお人柄そのものと思っています。」と仰っていました。

そのこだわりぶりは、日常生活にも発揮されました。朝二時に起き、制作をされ、散歩。お手伝いさんが来る前の早い朝食は、ご自分で料理をされ、味噌汁は前日からダシを取られ、具がジャガイモな

ら丸ごとにこだわり。「時間がかかる」と言われるので、岩池さんがパン食を勧めたところ、ドイツパンを取り寄せ、ポークビーンズを作るなど、逆に時間がかかったようでした。

飄々として気取らない、郷土を愛した粹人、尾崎正章先生のお人柄と、洗練された今も色あせない画風を改めて感じながら、図録などでは知ることのできない貴重なエピソードを皆さんからたくさん聞かせていただいて美術館を後にしました。

最後に快く取材にご協力をいただいた、有田順一館長をはじめ、スタッフの皆さん、山口一水会の皆さんに心よりお礼申し上げます。

(木村毅記)



「港(なかよし)」2001年 162×97cm

周南市郷土美術資料館 尾崎正章記念館

山口県周南市富田永源
(永源山公園内)

☎0834-62-3119

<http://s-bunka.jp/kyoubi/>



(左から)大久保さん・藤村さん・岩池さん・有田館長・高尾さん・弘中さん

一水会事務局だより

令和二年は一水会にとっても大変な年になってしまいました。三月の精鋭展の時、冗談で言っていた本展中止が現実になるとは思ってもみませんでした。運営委員も集まることが出来ず、各先生方に何度もお手紙を返信していただき、中止を皆さまにお知らせするのも遅れてしまいました。出品予定の皆様・関係の皆様には多大なご迷惑をお

かけしたことをお詫び申し上げます。

来年度に向けても今までにないことを予想して検討しなければならぬことが多くあります。搬入から審査までの流れ、会場で観覧の皆様にお願

東京都美術館の今後五年間の使用許可申請もあり、多くの書類を作成しました。無事、今までと同じ使用許可が下りましたが、その書類作成の際にはこの機関紙の記録がとも有効でした。全国で積極的に一水会の美術的な活動が行われているのが一目でわかるのは、とても貴重なことと改めて思いました。毎回、広報部が編集に大変時間をかけて練っているおかげです。感謝致します。

(玉虫良次記)

最近の動静

【逝去】

川村 親光(名誉会員)
本山 唯雄(名誉会員)
篠原 昭登(名誉会員)
吉本 義夫(委員)
工藤 道汪(会員)
【退会】
寺井 徹(委員)
久保田宗夫(準会員)
青山 秀之(会友)
石坂美佐子(会友)
大江 純子(会友)
奥田 洋子(会友)
花井美恵子(会友)

表彰

会員の鈴木喜博さんが、令和二年八月に開催された全国公募「第10回サムホール展静岡」で準大賞(大賞該当無し)を受賞されました。

鈴木さんに受賞の弁をお伺いしました。

「コロナ禍で様々な展覧会が中止となる中、絵画活動が途切れないよう初めて応募してみました。サムホールという小さな画面では、作者の強い思い入れや、さまざまな表現

が受賞の決め手となりました。その中で私のような平凡な作品が賞に選ばれたことに驚き、そして大賞とならなかったことに納得してしまいました。これが現在の私の課題と

思っています。」

受賞作品「旬の季」



日展審査を終えて



令和二年は新型コロナウイルス禍で多くの美術公募展の延期中止される中、審査を無事終える事が出来ホッとしているところです。一水会から池田清明先生と私が審査に当たりました。当会からは例年を上回る出品があり六十六名が入選を果たされ大変良い成績でした。

今回初審査に臨み数多の作品の中、一水会の絵の質の良さと描写力、画品が優れていると認識した次第です。

(鍵主 恭夫 記)



「白い刻」 山本 佳子

2021年の展覧会スケジュール

令和3年度 第82回一水会展

(第83回ではありません)

【会期】9月19日(日)～10月5日(火)

※休館日/9月21日(火)・10月4日(月)

【搬入】9月4日(土)・5日(日)